

エデュアルド・ピサーニIFPMA理事長 就任後初めて来日

トピックス

2010年1月にIFPMA（国際製薬団体連合会）理事長に就任したピサーニ氏が来日し、4月12日から15日の日程で会員会社への表敬訪問と各省庁への挨拶まわりなど積極的にスケジュールをこなしました。また国際委員会総会にも出席し、IFPMAが今後取り組んでいく活動について講演がありました。

国際委員会での講演

IFPMA理事長に就任したピサーニ氏の講演では、まず、世界中の患者さんに革新的医薬品提供を行っていくための政策集団であり、医薬品の倫理的なプロモーションを推進するとともに、世界標準に準じた高品質な医薬品を提供し、新興国や途上国に医薬品業界の経験を生かして友好関係を築いていくIFPMAの目標について説明しました。また、IFPMAのジュネーブでのミッションとして、業界にかかわる諸問題について業界の政策・方針を発出していくこと、また医薬品産業の将来の発展のために新興国との協調に向けた活動を行っていくことを強調しました。

2010年のIFPMAの優先事項については①パンデミックインフルエンザ対策、特にウイルス共有と利益共有、②公衆衛生・イノベーション・知的財産に関する政府間会合の世界戦略と行動計画における途上国特有の疾患についての研究開発促進と研究開発資金の枠組みに関する作業部会からの報告、③偽造医薬品対策、④知的財産保護、⑤途上国支援、⑥世界保健機関（WHO）の非感染性疾患への取り組みへの参加、⑦WHOのバイオシミラーガイドラインの新興国への普及、⑧臨床試験結果の透明性などについて積極的に取り組んでいくと述べました。また、以上の優先事項のうち①～③は5月開催の世界保健総会（WHA）の議題となっています。最後に医薬品業界に影響を与える国際問題について製薬協のさらなる貢献に期待を表明し、途上国へのキャパシティービルディングや協調関係において加盟会社の協力を要請しました。



エデュアルド・ピサーニ氏

エデュアルド・ピサーニ氏について

<職歴>

1989年にLederle France社に入社後、Immuno AG社（ベルギー、オーストリア）、Baxter Healthcare社（ベルギー、イタリア）、SmithKline Beecham社（ベルギー）等にて弁護士、欧州政策・政府対応業務に携わった後、2001年にBristol-Myers Squibb（BMS）社入社。同社では、国際政策・政府対応業務担当副社長を務める。2010年よりIFPMA理事長に就任。

BMS社では、医薬品の価値向上に関する活動にとどまらず、感染症、メンタルヘルスといった主要な疾患領域における欧州レベルでの政策推進に寄与。また、在欧州米国商工会議所（the American Chamber of Commerce）のサポートの下、ブリュッセルの医療政策に関する初めての産業横断型のアドボカシーグループを設立（2007-2008年に同商工会議所の取締役就任）。

（国際部部长 紙屋 稔）